

人体に生じる電界の異常

T.F

2009年3月5日

目次

1	概略	1
1.1	人体に生じている電界の異常（高電圧の発生）	1
1.2	観測される頻度	2
1.3	電圧の絶対値	2

1 概略

インターネット上で騒がれている、集団ストーカー、人体への、電磁波によると考えられる攻撃などの被害に遭っていますが、簡易的な測定器を利用して、人体に生じている異常な電界の変動を捉える事に成功しましたので、その結果を報告したいと思います。

1.1 人体に生じている電界の異常（高電圧の発生）

一年以上に渡り観測を繰り返しましたが、明らかに、人体に高電界変動が生じています。一見すると、冬場に発生しやすい静電気による放電現象に似ていますが、しかし、通年を通した観測の結果、湿度などに関わらずに発生し、再現性が非常に高い事を確認しました。

掲載したグラフは、100秒間のデーターから開始して、さらに、そのほぼ中央部分を徐々に拡大したものです。

図1のグラフを見ますと、明らかに、パルス状の電界の異常が見て取れると思います。この現象は、一旦発生すると長時間に渡り観測される事が多いですが、何時発生するのかわかりませんので、長時間の定点観測が要求されます。

図5のグラフは、20ミリ秒間のデーターですが、やはり、この結果からも短時間のパルス状の高電圧変動が読み取れますし、周波数変換後の、図6のグラフから、最短のパルス周期は、約450マイクロ秒、2200Hzの周期と分かります。計測に使用している装置のサンプリング間隔が短ければ、発生しているパルス幅はもっと短く観測できるかも知れません。

鉄製の容器¹⁾から、レーザー・アブレーションによると考えられる怪音（ラップ音）が、高頻度で発生するのですが、この時も、音の発生と同時に電界の異常を確認しました。

因みに、この怪音は、時として爆音と表現するのが相応しいほどの凄まじい破裂音がします。高頻度で発生する現象ですので、音を押さえるため、容器の上に手提げカバンを置いて、音を押さえる工夫をしたのですが、爆音と共に、この手提げカバンが大きく揺らいた事もあります。この時、開放された運動エネルギーは、概算で1ジュール程度はあったと記憶しています。

室内の至る所から発生する怪音（ラップ音）と同時に、電界の異常が観測されますので、怪音（ラップ）の発生の原因は、パルス性の電磁波の照射によるものと考えられる分だけです。

強力なミリ波、可視光域のレーザーなどを使用して、レーザー・アブレーション²⁾を発生する事ができますが、X線領域の周波数帯域でもアブレーションが発生しますので、パルス性の電磁波を悪用する事で、怪音（ラップ音）を、遠隔地からの操作により発生し、睡眠などを妨害する犯罪行為が行われていると考えられるのです。

¹⁾ キャンプ用品で有名なコールマンのガソリタンク（1ガロン）

²⁾ レーザー・アブレーション：非常に短時間、強力なレーザー・パルスを照射した物体からは、音波、超音波、電磁波、X線が発生する。特に激しい音波、超音波が発生する事をレーザー・アブレーションと言う。また、この時、表面の数原子層が一瞬にしてプラズマ化し、強い圧力が発生する。当然の事、強電界、強磁界状態であり、高電圧が発生する。

電界の異常と同時に、身体に痛みや刺激を感じるとは限らないようです。ですが、医者が使用しているレーザー・メスは、人体の神経が、痛みを感じ取るに必要な時間よりも、短時間、パルス状に照射されるため、痛みを殆んど感じる事はなく手術が可能だとされていますので、同じ様に、短時間パルス状に高電圧が発生しても痛みを感じる事はないと思われます。

肩こりを治療するための低周波治療器も、高い電圧をパルス状に人体に加えますが、パルスの時間が短いために痛みを感じる事はないのだそうです。治療中に筋肉が痙攣したように動きますが、電磁波被害は、このような現象を遠隔地から電磁波により起こせるのではないのでしょうか？ 低周波治療器の場合、設定（モード）を変更する事により、電圧の強さとパルスの時間間隔を変更して治療効果を変える事ができますが、設定と治療の部位によっては痛みを感じる事もあります。パルスの間隔と電圧次第で、人体は痛みや刺激を感じる事は確かです。

1.2 観測される頻度

電界の異常が観測される頻度ですが、数時間以上継続する事も珍しくはありません。しかし、観測できない日もあります。また、日に何度も繰り返し発生する事もあります。測定器を身に付けて、外出中に記録したデータからも同じ現象を捉える事ができますし、その発生頻度は非常に高いです。自宅室内に限らずに発生し、場所、時間を問わず観測される現象なのです。この事から、電磁波を悪用し、被害者に対して危害を加えている集団が存在すると考えられる分けです。

1.3 電圧の絶対値

発生している電圧の絶対値が問題となりますが、簡単な実験から推定して、数十万ボルト以上の電圧が人体に発生していると分かりました。

電子ライターを分解し、高電圧発生ユニットを取り出して、高電圧のパルス電圧発生器を作ります。このパルス電圧は、数万ボルト程度の電圧が発生する事が分かっています。このパルス発生器を、使用している測定器に近づけて、記録された波形を観測します。パルス発生器と測定器の距離を変える事で、波形は変化しますので、この波形と比較検討する事により、人体に発生している電圧の概算値が分かります。

図 1: 100 秒間のグラフ

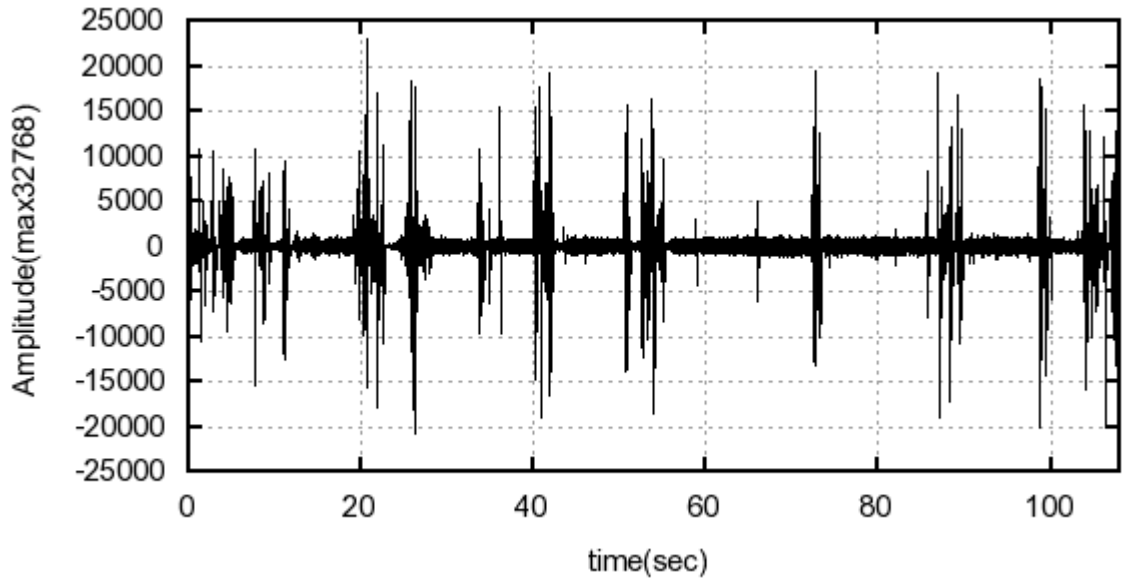


図 2: 5 秒間のグラフ

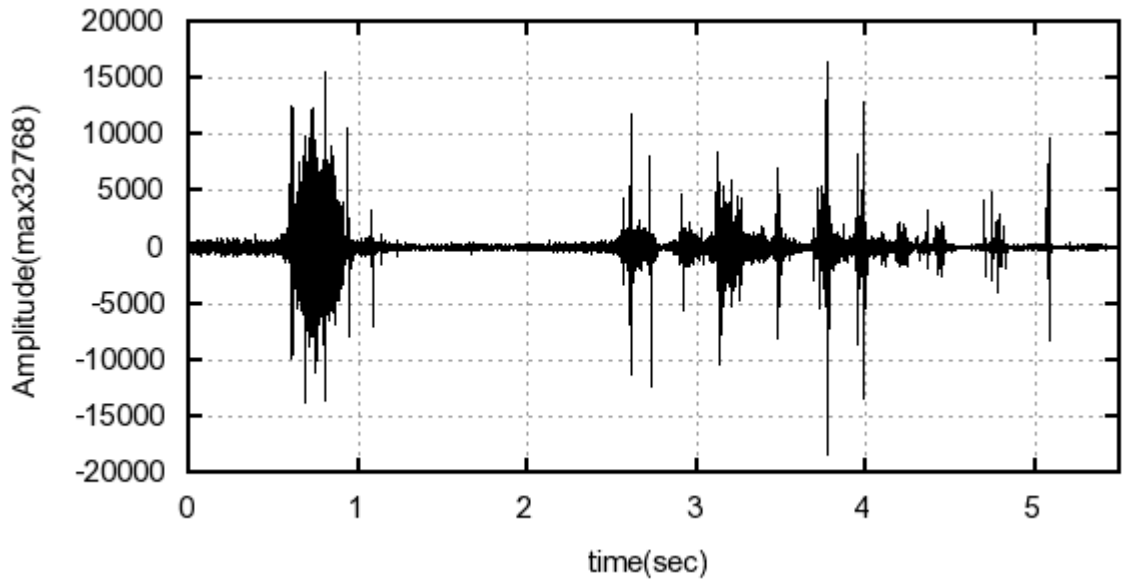


図 3: 0.7 秒間のグラフ

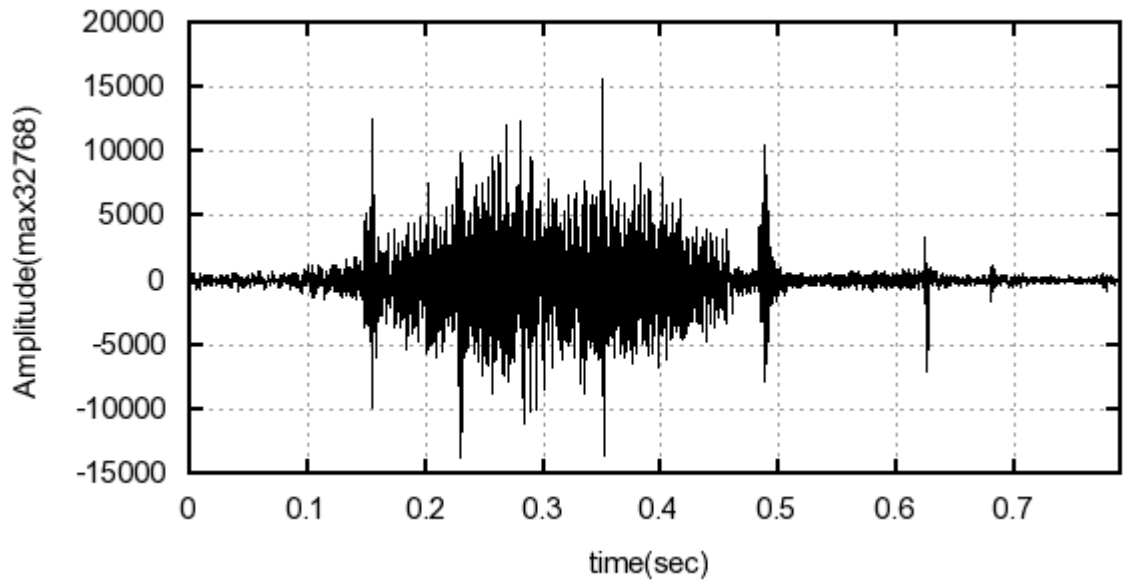


図 4: 0.1 秒間のグラフ

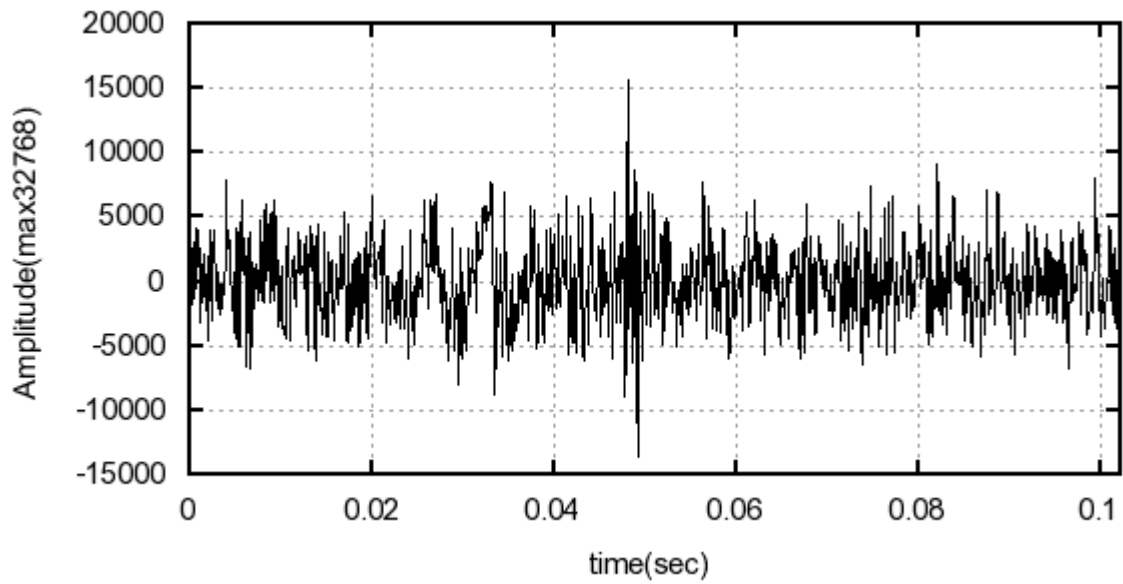


図 5: 20 ミリ秒間のグラフ

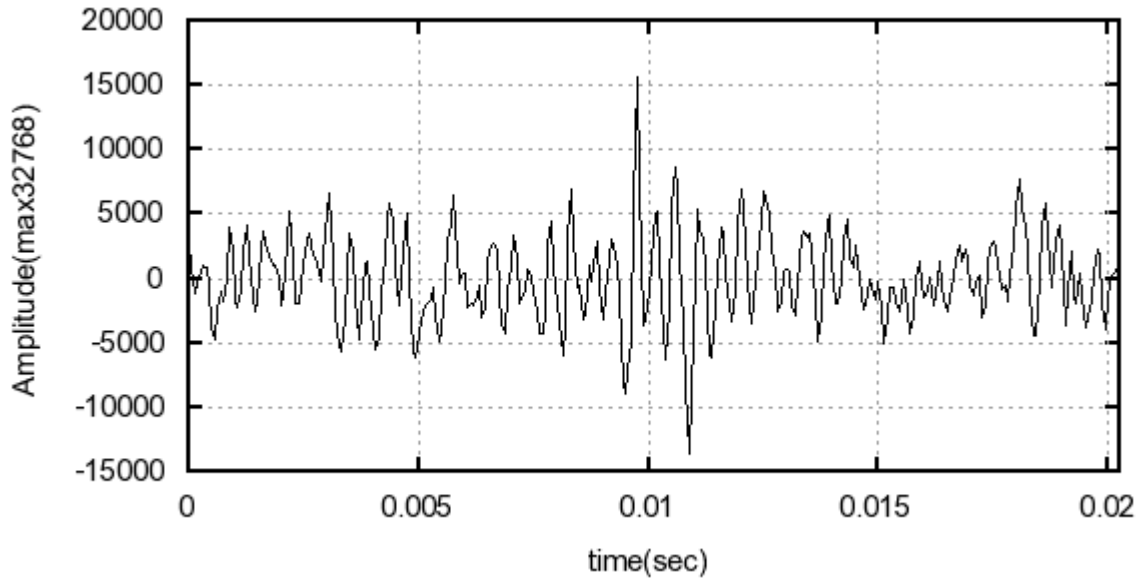


図 6: 20 ミリ秒間のグラフと同じデータを FFT グラフ化

